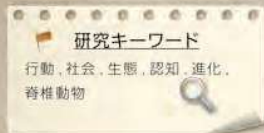




# 動物行動学、行動生態学、霊長類学

動物はどのように生きて、何を考えているのだろうか

沓掛 展之 教授  
Nobuyuki Kutsukake



## 経歴

大学院では霊長類の社会行動を研究。その後、哺乳類を中心とする脊椎動物の行動、生態、認知、進化を研究。

## 所属学会

動物行動学会、進化学会

## 志望者へメッセージ

大学院生の研究テーマ・研究対象は基本的に自由で、自主的な研究提案を尊重しています（放任という意味ではありません）。動物が好きで、自主的に研究を行いたい学生と一緒に研究することを楽しみにしています。

## E-mail

kutsu@soken.ac.jp

## URL

<https://sites.google.com/view/nkutsukake/>  
<https://sites.google.com/site/sokendarwin>

## 研究詳細QR



動物を観察していると「動物はどんな暮らしをしているのだろうか?」「動物は何をを考えているのだろうか?」などの多くの疑問が生じます。我々ヒトとは似ても似つかない動物が、時間を遡ると同じ存在であったことを考えてみます。その時間の長さをうまく理解することはできないが、分岐した後、あちら側とこちら側で、なぜ、これほど違う存在になったのだろうかという疑問を持ちます。これらの疑問は、動物の行動や生態を分析し、動物の「生き様」を進化生物学的に考えることで、ある程度、解決できます。これまで哺乳類を中心として、鳥、両生類、魚などの脊椎動物を対象に研究を行ってきました（爬虫類はまだ、誰か一緒にやりましょう）。具体的には、野生動物が生息するフィールドに滞在し、それぞれの個体に名前をつけて、彼らの行動を日々記録するという地道な作業を行います。データを積み重ねることによって、動物の社会がどのように成り立っている、それぞれの個体の行動にはどのような意味があるのかを理解することができます。長野のニホンザル、タンザニアのチンパンジー、カラハリのミーアキャット。研究してきた動物一頭一頭の姿や振る舞いは、今でも鮮明に思い出すことができます（ハダカデバネズミはみな同じに見えるのでよく思い出せません）。研究対象が夢に出てくるほど研究対象をじっくりと観察することが、動物を理解する王道であると思います。その一方で、自分の研究対象にとらわれる事なく、多くの動物に共通して当てはまる理論を考える事が、動物を理解するうえで効率的な戦略です。現在の進化的行動生態学は、自然誌(ナチュラルヒストリー)や古典的動物行動学の成果に、一般的理論からの予測と検証が加わって美しく発展してきました。この分野の発展に貢献するような一般的理論を発見できればと考えています。



豪雪地帯のニホンザル



真社会性のハダカデバネズミ



カラハリのミーアキャット

## 代表的な論文、著書等

- Haba Y, Kutsukake N. (2019) A multivariate phylogenetic comparative method incorporating a flexible function between discrete and continuous traits. *Evolutionary Ecology* 33: 751-768. doi: 10.1007/s10682-1019-10011-6
- Hasegawa M, Kutsukake N. (2019) Kin selection and reproductive value in social mammals. *Journal of Ethology*. 37: 139-150. doi: 10.1007/s10164-019-00586-6
- Takeda FK, Hiraiwa-Hasegawa M, Kutsukake N. (2019) Uncoordinated dances associated with high reproductive success in a crane. *Behavioral Ecology* 30: 101-106. doi: 10.1093/beheco/ary159
- Ito MH, Yamaguchi M, Kutsukake N. (2018) Redirected aggression as a conflict management tactic in the social cichlid fish *Julidochromis regani*. *Proceedings of the Royal Society of London. Series B, Biological Sciences*, 285: 2017.2681. doi: 10.1098/rspb.2017.2681
- Mizuno K, Irie N, Hiraiwa-Hasegawa M, Kutsukake N. (2016) Asian elephants acquire inaccessible food by blowing. *Animal Cognition*. 19: 215-222. doi: 10.1007/s10077-015-0929-2
- 沓掛展之・古賀庸憲 2012 行動生態学 共立出版